

♪ 2019年度 **poco a poco** ♪

Nr. 26

2020年3月4日(水)

文責:プファイル・辰巳

3学期ミニコンサートを終えて

2月27日木曜日、3学期ミニコンサートが終わりました。インフルエンザやコロナウィルスなど不安材料もありましたが、何とか無事終えることができてホッとしています。1・2学期も含めて、出演してくれたみなさん、毎回、温かい声援を送ってくださった聴衆のみなさん、本当にありがとうございました。



ロビーのモニターを活用していただいたお陰でしょうか、本会場の方はひどく混雑することも少なく、スムーズに出入りができたようです。ご協力ありがとうございました。会場では、低学年の子どもたちには保護者の方々と一緒に座って聞いてくれるようお願いしていましたが、この点については実行されていない場面もあり、子どもたち同士のおしゃべりが気になることがありました。

「演奏が始まったら静かにする」という習慣が身に着くようにと願っています。頑張っている人の目の前で、平気でおしゃべりするようにはなってもらいたくないのです。

2・3学期は出演希望が大変多く、終了時刻も遅くなってしまいました。来年度に向けて、何らかの対策を講じる必要を感じています。申し込み要領変更の場合には、ご理解・ご協力をいただくこととなります。よろしく申し上げます。来年度も楽しいミニコンサートが続けられるようにと願っています。

音楽こぼれ話 <大作曲家の家族たち ⑨>

ベートーヴェンの母:マリア・マグダレーナ>

久々の連載シリーズです。2020年がベートーヴェン生誕250周年に当たることは、年頭の「ぽこあぽこ」にて紹介させていただきました。今日は、そのベートーヴェンのお母さんについてのお話です。

ベートーヴェンには奥さんも子どももいなかったので、彼の家族としてよく紹介されるのは、ちょっとお酒癖が悪かったとされるお父さんか、弟やその子ども(甥っ子)の話

になることが多いのですが、今回はお母さんに登場してもらいます。

ベートーヴェンのお母さんはライン川とモーゼル川が合流するドイツェスエックで有名なコーブレンツという町のエーレンブライトシュタイン地区に生まれました。1746年のことでした。名前はマリア・マグダレーナ。かなり裕福な家庭だったようで、お母さんの生家も現存しています。「ベートーヴェンの母の家(Mutter Beethoven Haus)」という名前でミュージアムとして公開されています。(開館時間が限られていますので、訪問される方はホームページ等でお確かめください。)



16歳で結婚したマリア・マグダレーナでしたが、最初の結婚相手は2年後に死去。18歳の若さで未亡人となります。その後、いとこの旦那さんと職場が同じであった、ルードヴィヒ・ファン・ベートーヴェンのお父さん、ヨハンと知り合い、21歳で再婚しボンに移り住みました。

再婚した後、7人の子どもが生まれましたが、そのうち成人したのは3人だけ。ルードヴィヒは2番目の子どもでした。

ルードヴィヒはお母さんのことが大好きだったようで、母子は強い絆で結ばれていました。ルードヴィヒは16歳で初めて、音楽の都ウィーンへと旅に出ましたが、その直後お母さんは病気になってしまいます。作曲家の先輩モーツァルトに弟子入りしようと思っていた計画もそこそこに、取り急ぎ故郷ボンに戻ったルードヴィヒでした。しかし、お母さんは危篤状態になり、1787年、41歳の若さで亡くなってしまいます。

「ぼくのお母さんは、本当に愛されるべきよい人柄だった。彼女は母であると同時にぼくの最高の友人でもあった。」と、ルードヴィヒは後に書き残しています。

ちよっとだけ 演奏会情報

～フランクフルトオペラ劇場 3月の演目より～

子どものためのオペラ「ドンジョヴァンニ」(モーツァルト作曲)

公演日: 7日(土) 13:30と15:30 10日(火) 16:00
11日(水) 16:00 14日(土) 13:30と15:30
18日(水) 16:00

リヒャルト・シュトラウスのオペラ「サロメ」

8日(日)、13日(金)、20日(金)、26日(木)
いずれも 19:30 から
29日(日)のみ 15:30から(託児サービスあり)